

世界 YWCA 年次報告書  
2011 年 4 月～12 月

日本語版作成：日本 YWCA

# 世界 YWCA について

世界 YWCA は、世界各地 120 カ国以上で社会的・経済的な変革を先導する、地球規模の女性の権利運動です。コミュニティレベルで活動を進める YWCA は、2 万 2,000 のコミュニティで活動し、プログラムやサービスを通じて総計 2,500 万人にのぼる世界各地の女性や少女たちに手を差し伸べています。

キリスト教の教え、そして女性の完全かつ平等な社会参加の実現へのコミットメントを基盤かつ活力としている世界 YWCA は、多様な信仰、背景、文化を持つ女性たちを隔たりなく受け入れ、人権に基づく枠組みのもとで一貫性と責任ある活動をおこなっています。

## 2012-2015 年における行動指針

### ビジョン:

女性のリーダーシップにより正義、平和、健康、人間の尊厳、自由および環境保護などが促進され維持される、すべての人を受け入れるような世界

### 目的:

すべての人が正義、平和、健康、人間の尊厳、自由および持続可能な環境を得られるため、全世界の女性や少女のリーダーシップを育成すること

### ゴール:

❖ 女性、若い女性および少女が生活やコミュニティの中でリーダーシップを発揮し、自分たちの権利を求めて声をあげること

❖ アドボカシー・プログラムやサービスを通して、女性、若い女性および少女の社会的、経済的、文化的、市民的および政治的権利が促進され守られること

❖ 世界 YWCA が、その組織的な責務を最高の水準で全うして機能することにより、女性や少女のリーダーシップを養成するという目的を効果的に遂行すること

### プログラムの優先課題:

❖ 若い女性のリーダーシップ

❖ 性と生殖に関する健康と権利(SRHR)、および HIV

❖ 女性に対する暴力

## 目標と成果に関する表明(Impact Statement):

多様な女性たち、若い女性たち、少女たちがエンパワーされた指導者として、また決断する者として、彼女たちの生活およびコミュニティに影響を与える課題に関与し変革を担う者として、彼女たちの権利を主張し勝ち取ることができること。



## 総幹事からのメッセージ



2011 年は世界総会の年であり、世界 YWCA にとって特別な年でした。世界 YWCA 総会は、今では 120 カ国以上で活動している世界中の YWCA 運動が結集し、運動を勢いづけ、結束を深め、

私たちが共有するビジョンをより前進させるための共通の方向性を創り出す特別な場です。今年の総会では、重要な決定がなされ、方向性が定められ、決議がなされ、意見が表明され、また将来の展望を描くためのプロセスが開始しました。

また、世界総会中に第 4 回国際女性サミットが開催されました。国際女性サミットは、長期にわたって支援をいただいていた多くの協力団体と関係を深め、経験を共有する機会となりました。これらの協力団体からの支援がなければ、私たちが世界各地で活動をおこなうための力は得られなかったでしょう。多くのハイレベルのリーダーたちが若い女性のリーダーたちと席を並べて、女性が直面する諸問題について討論しました。彼女たちは、女性と少女の権利、リーダーシップおよびエンパワメントのための世界的課題を具体化し、ミレニアム開発目標が期限とした 2015 年以降の開発の枠組み、ならびに北京行動綱領から 20 年後の振り返りへ、大きく貢献しました。

世界 YWCA 総会では、世界 YWCA が世界中で果たしている役割の重要性、また性と生殖に関する健康と権利 (SRHR) および HIV、女性や少女に対する暴力など緊急を要する問題について私たちが世界的に声をあげていく必要があることを強調しました。これらの緊急課題については、世界総会のテーマである「女性が創り出す安全な世界」という角度から取り上げました。

世界総会で新会長と運営委員が選任され、組織は新スタートを切りました。20 名の運営委員のうち、45%は若い女性です。これは、リーダーシップの機会を通して、若い女性たちをエンパワーし、組織の将来の方向性に彼女たちの影響力を確保するという世界 YWCA のコミットメントを強調するものです。150 年以上にわたり YWCA は世界中のコミュニティにおいて若い女性のエンパワメントのための取り組みを先導し、その実現のために努力し続けています。

この勢いに乗り、世界 YWCA は世界総会でダイナミックな行動計画を発表しました。女性の権利促進、とりわけ性と生殖に関する権利、暴力からの自由、ならびに意志決定プロセスへの平等な参加の促進は、YWCA の活動の中心であり、本報告書の期間中、世界 YWCA は、新たに策定した「2012~2015 年の目的達成に向けた計画と方策の枠組み」に内在する理念である人権基盤アプローチを活動に取り入れました。

組織をすばらしいものにするのは、その組織の成功のために貢献し取り組む人たちです。今年という年を成功に導いたのは、献身的で有能なスタッフ、無数の熱心なボランティアや加盟 YWCA、世界総会のホスト団体であるスイス YMCA-YWCA、私たちの友人、協力者、寄付者の皆さまです。私たちが達成したすべてのことは、皆さまの知識、スキル、費やしていただいた時間、コミットメントと貢献なくしてあり得ませんでした。

今回任期を終えられたスーザン・ブレナン会長はじめ旧運営委員会の皆さまとリーダーシップを共にできたこと、また、デボラ・トーマス＝オースティン新会長を先頭に私たちの活動を率いていく新たな運営委員会を迎えたことも喜びでした。

皆さまの 2011 年のご支援と、「女性が創り出す安全な世界」への貢献に感謝いたします。■

ニャラザイ・グンボンズバンダ

世界 YWCA 総幹事

## 第 27 回世界 YWCA 総会と 国際女性サミット

本報告期間の最大の焦点は、国際女性サミット (IWS) を含めた世界 YWCA 総会でした。総会は、「女性が創りだす安全な世界」というテーマのもと、スイス・チューリッヒで 2011 年 7 月 10～16 日に開催され、97 カ国から約 1,000 人近くの女性や男性が集結しました。

世界 YWCA 総会は、4 年に一度、世界各地から加盟 YWCA が集結し、決議をおこなう会議です。基本的任務は、世界 YWCA の向こう 4 年間の方針、体制、計画の方向性および予算を決めることです。今年の総会では、人権に大きく注目した新しい計画と方策の枠組みの承認、新会長および運営委員の選出、ハイチ YWCA ならびに米領バージン諸島 YWCA の新規加盟、気候の公正および北朝鮮の人権状況に関する決議の採択など、多くのハイライトがありました。さらに、多くのワークショップや能力向上セッションがおこなわれ、YWCA 間、また協力団体との間で知識や経験を交換する場となりました。

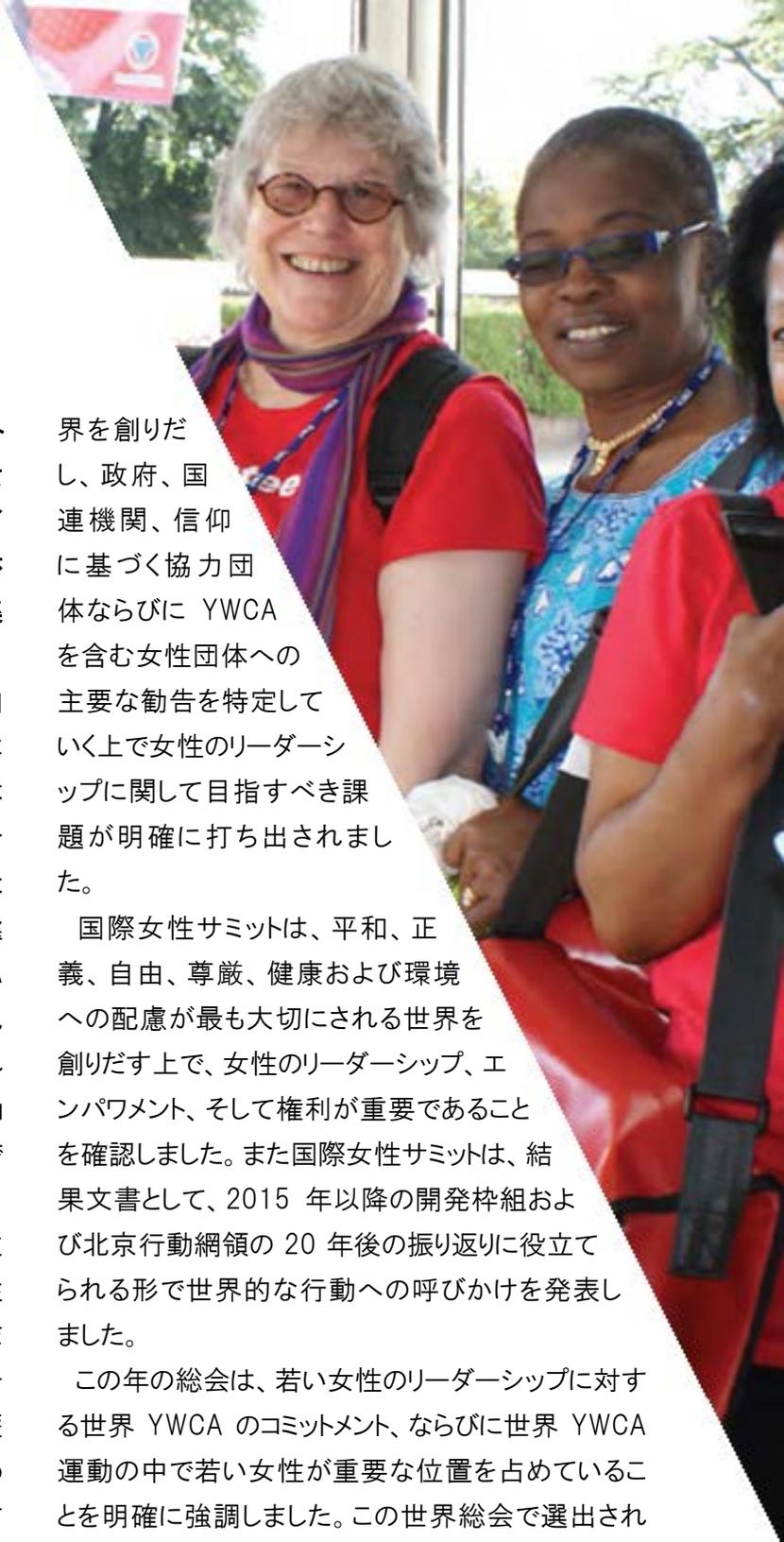
国際女性サミットは、女性たちが自分の権利を主張することができる安全な世界を創りだすため、女性のリーダーシップを結集することを目的に開催されました。熱心に耳を傾ける聴衆を前に、ミシェル・バチエレ、メアリー・ロビンソン、ルース・ドレフュスという歴代初の女性大統領を含む 3 人の元大統領をはじめとしたハイレベルのリーダーたちが、変革を現実にするべくコミュニティで働く若い女性たちと並んでビジョンを共有しました。本会議セッションの主なテーマは「女性が創りだす安全な世界」「女性の性と生殖に関する権利の確保」「女性に対する暴力の撲滅」「正義の確保」そして「女性と少女のための安全な場を求めること」です。本会議および分科会では、安全な世

界を創りだし、政府、国連機関、信仰に基づく協力団体ならびに YWCA を含む女性団体への主要な勧告を特定していく上で女性のリーダーシップに関して目指すべき課題が明確に打ち出されました。

国際女性サミットは、平和、正義、自由、尊厳、健康および環境への配慮が最も大切にされる世界を創りだす上で、女性のリーダーシップ、エンパワメント、そして権利が重要であることを確認しました。また国際女性サミットは、結果文書として、2015 年以降の開発枠組および北京行動綱領の 20 年後の振り返りに役立てられる形で世界的な行動への呼びかけを発表しました。

この年の総会は、若い女性のリーダーシップに対する世界 YWCA のコミットメント、ならびに世界 YWCA 運動の中で若い女性が重要な位置を占めていることを明確に強調しました。この世界総会で選出された YWCA 新運営委員のうち 45% は若い女性であり、世界各地から総勢 200 名の若い女性たちが、若い女性のリーダーシップ対話に参加し、国際女性サミットに貢献しました。国際女性サミットでは、若い女性たちの意見を中心に問題の分析がおこなわれました。

■



## リーダーシップへの道筋をつくる

2011年の世界YWCAの主な目標は、すべてのレベルで女性のリーダーシップを向上させ、世界中の女性たちが意志決定において重要な役割を果たし、変革に影響を与えることができるようにすることでした。

### 主な成果：

❖ 活力にあふれた**運動構築とリーダーシップのプレ総会**が、総勢350人の参加のもと、「変化をもたらす世代間リーダーシップ」「人権とアドボカシー」ならびに「適切なガバナンスと説明責任」に焦点を置いて開催されました。協力団体や加盟YWCAの先導でトレーニング・セッションがおこなわれ、相互的な学習・協議の場となりました。

❖ **世界総会本会議と国際女性サミット**に出席した1,000人近くの参加者は、各YWCAや協力団体が運営する50以上の分科会や**スキル構築ワークショップ**にも参加しました。これらのワークショップは、主要課題に関して成功事例を共有し、アドボカシー計画を発展し、参加者たちが新たな知識を得るための基盤となりました。

❖ 世界総会において、また、その後、2011年9月に太平洋地域のYWCAおよび協力団体とともに開催した「太平洋リーダーフォーラム」において、今までにない「**太平洋地域の若い女性たちのリーダーシップ計画**」が策定され、英連邦首脳会議(CHOGM)でも発表されました。このリーダーシップ計画はこれまで類を見ないものであり、また人口の半分以上が25歳以下の地域を対象地域としています。パプアニューギニア、フィジー、ソロモン諸島、サモア、オーストラリアやアオテアロア／ニュージーランドの何百人もの若い女性たちが同計画の策定に貢献しており、また計画を履行に導くために協力団体の連合体が設立されています。

❖ ドイツ教会開発サービス(EED)や世界奉仕委員会を含む協力団体の支援を得て、ジュネーブにある

世界YWCA事務所での1年間のインターンシップに2人の若い女性を選出され、また4人の短期インターンが、米国・ニューヨークで開催された女性の地位委員会(CSW)ならびに世界総会に参加しました。世界総会では**インターンシップ・プログラム20周年**を盛大に祝い、インターン経験者が集まりました。参加者へのアンケートの結果、インターン経験が彼女たちの人生の根本に影響を与えたことが浮き彫りになり、インターン経験者の大多数が現在、おのおのの国・地域のYWCAや他の団体でリーダーとして大きな役割を果たしていることもわかりました。このことは、2011年の世界YWCAインターンのジェンタ・タウが2011年12月に祖国へ戻り、ソロモン諸島YWCAの総幹事に任命されたことで一層確かになりました。

❖ 世界YWCA総会において、**メアリー・ロビンソンとシングルン・モゲダル**大使により**人権の分野における若い女性のリーダーシップを称える「メアリーロビンソン賞」**が創設されました。この賞は、世界中で若い女性が人権活動において示しているすばらしいリーダーシップ、また彼女たちがもたらしている生活やコミュニティの変革を称えて創設されました。70カ国からの応募の中、賞はナンシー・カペンブワ(ザンビアYWCA)とジャシント・ニャチャエ(エイズ法律プロジェクト・ケニア)に与えられ、また若い女性のリーダーシップを輝かせるため、彼女たちに力を与える環境を創りだしたカナダとベリーズのYWCAが共同受賞しました。

❖ 2011年7月、世界YWCAはヨーロッパ地域の加盟YWCAと協力し、ハンガリー・ブダペストで「**ヨーロッパ・暴力のない世界をつくるための若い女性のステディ・セッション**」を開催しました。参加者たちは、知識を互いに共有し、人権、プロジェクト・マネジメントやアドボカシー活動など多岐にわたる分野のスキルを向上させ、ヨーロッパ地域でパートナーシップを強化しました。■

## アドボカシー活動の効果

女性や子どもの人権を保護・促進するための政策や慣習が履行されるよう確保することは、世界 YWCA にとって引き続き重要な焦点です。地域の女性たちの声を国際的な政策決定の場へ導き、他の協力団体とともに、世界中で女性や少女のアドボカシー活動を促進しその影響力を強めていくことは、組織としての世界的計画の中核です。

### 主な成果：

❖ **国際女性サミット(IWS)**では、世界総会を背景として、女性のリーダーシップの促進、安全な場、性と生殖に関する健康と権利(SRHR)および HIV、女性に対する暴力(VAW)を焦点に、1,000 人近い参加者に加えて高名な発言者・活動家が集まりました。IWS は、優先課題におけるパートナーシップを強化し、女性のリーダーシップ、権利およびエンパワメントに関する今後 10 年間の課題を打ち出しました。

❖ **スイス・ジュネーブで開催される人権理事会**は、世界 YWCA インターンシップ・プログラムに参加している若い女性たちが、自分たちの国や地域で女性や若い女性が直面している問題について発言することができる重要な場となりました。彼女たちが発言をおこなった問題には、エチオピアにおける女児に対する有害な慣習や、太平洋地域における女性への暴力の高い比率などが含まれます。世界 YWCA はまた、6 月の会期に採択された、女性に対する暴力(VAW)への取り組みの一環としての保護メカニズムに関する決議の文案作成に貢献しました。

❖ **世界 YWCA は、スイスで開催される女性の地位委員会に関する NGO 委員会**、ならびに VAW と平和

に関する作業部会の議長に選任されました。これらの任務の一環として、世界 YWCA はニューヨークで開催された女性の地位委員会第 56 会期の準備に活発に関わり、パレスチナの人々と連帯する国際デーに際して NGO として発言し、11 月に女性差別撤廃委員会(CEDAW)がジュネーブで開催された際には委員との会合を持ちました。

❖ **世界 YWCA は、国連安全保障理事会決議 1325 号の履行にむけた女性のアドボカシー能力を強化する「女性と開発のためのフォーラム」(FOKUS)と Y-グローバルの支援のもと、スーダン・スリランカ・パレスチナ YWCA 間でのパートナーシップを主導しています。**同グループは、2011 年の世界総会で活動内容を共有し、また 2011 年 12 月には、北スリランカの女性たちが直面する状況とそれを受けた YWCA の活動に関して認識を広めるため、スリランカへの連帯訪問とパートナー会議が開催されました。連帯訪問にはパレスチナ、南スーダン、スリランカ、コロンビア、ミャンマーおよびジンバブエから若い女性が参加し、成果を「スセリ・メラ(スリランカ女性の声)」会議で発表しました。

❖ **世界 YWCA は SRHR や HIV に関する先駆的な専門家としての認知が広まりつつあり、ペルーならびにコロンビアの YWCA とともに国連 HIV/エイズ・ハイレベル会合に**発言者として招待されました。

❖ **世界 YWCA は「女性と子どもの健康に関する情報と説明責任ハイレベル委員会」に市民社会代表として参加するよう招待されました。**同委員会は、健康向上のため出資された 400 億米ドルの資金の支出を監視するよう勧告を出しています。■

## 私たちの信仰を尊重する



YWCA という名前に含まれる「C」の字は、組織が基盤とする価値を常に思い出させる存在であり、また、世界 YWCA が地域的および国際的なエキュメニカル会合においてリーダーシップを発揮する際、その活動を導き続けています。

### 主な成果:

❖ 世界総会は、女性の権利のための活動を支援する神学者ネットワークの発展をさらに促進する機会となりました。ドイツ開発のためのキリスト教会相互団体 (ICCO) の支援を得て、4 名の女性神学者が神学、SRHR および HIV に関するセッションをおこないました。

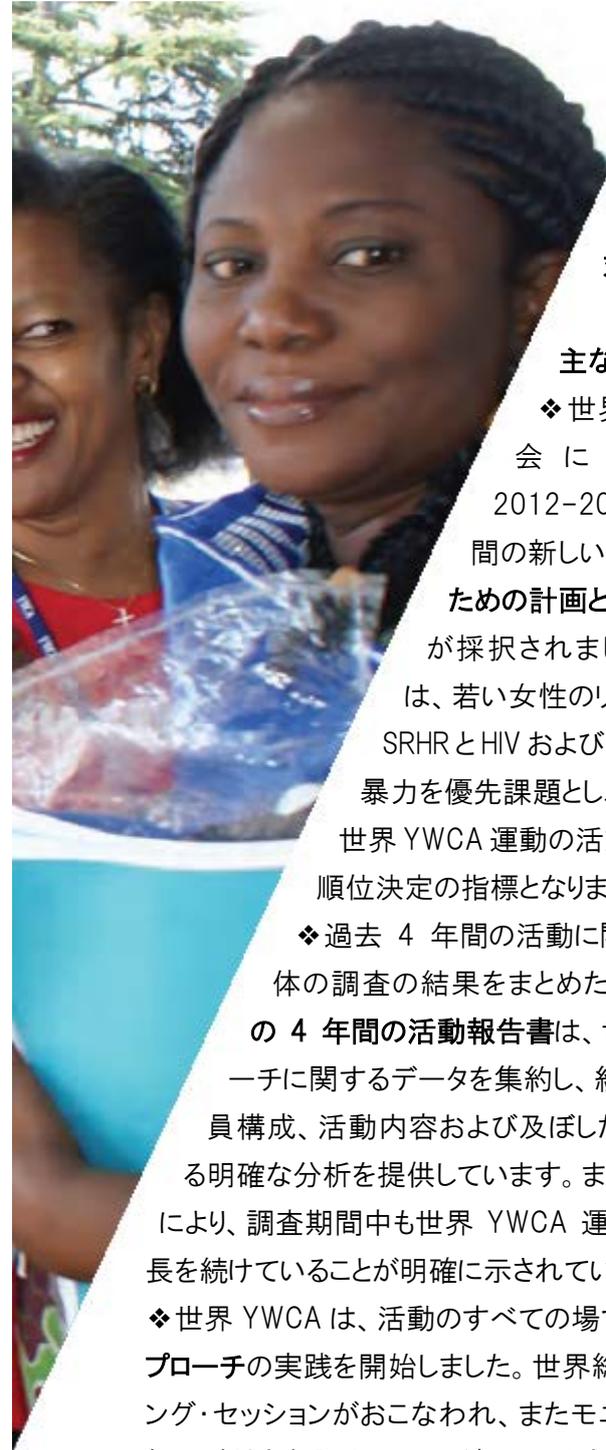
❖ 世界総会では毎朝礼拝が守られ、参加者は、より安全な世界は可能か、またその実現のために YWCA の活動がどのように貢献していくことができるかなどをそれぞれ思い巡らすよう促されました。スイス YWCA-YMCA の女性のチームが用意したダイナミックなプログラムでは、演劇、パントマイム、象徴的儀式、世界中さまざまな場所および多数の異なる文化からの音楽などがあり、また聖書から読み取ることのできる、伝統的なものとは異なる神の姿を考えました。

❖ 世界 YWCA は、HIV および AIDS への取り組みに関して宗教的リーダーの持つ役割を検討するエキュメニカル・アドボカシー連盟の HIV に関するシニア宗教リーダー作業部会に出席しました。

❖ 毎年の世界 YWCA/YMCA 合同祈禱週が 11 月におこなわれ、「影響を与える声～若者は権利と正義を呼び求める～」というテーマに関して合同の祈りと振り返りを呼びかけました。特別な小冊子が英語、フランス語、スペイン語で発行され、YWCA および YMCA 運動の間で配布されました。



## YWCA 運動の動き



世界 YWCA は 150 年以上の歴史を持ちますが、同時に、時代とともに進化してきた団体でもあります。女性、若い女性および少女たちの異なるニーズに対応するため、定期的に優先課題を更新し、最新の手法、技術、インフラを取り入れることで世界的な変化に対応してきました。

### 主な成果：

- ❖ 世界 YWCA 総会において、2012-2015 年の 4 年間の新しい「目的達成のための計画と方策の枠組」が採択されました。同枠組は、若い女性のリーダーシップ、SRHR と HIV および女性に対する暴力を優先課題とし、今後 4 年間世界 YWCA 運動の活動および優先順位決定の指標となります。
- ❖ 過去 4 年間の活動に関する運動全体の調査の結果をまとめた**世界 YWCA の 4 年間の活動報告書**は、世界的アウトリーチに関するデータを集約し、組織全体の会員構成、活動内容および及ぼした影響に関する明確な分析を提供しています。またこの報告書により、調査期間中も世界 YWCA 運動が発展・成長を続けていることが明確に示されています。
- ❖ 世界 YWCA は、活動のすべての場で**人権基盤アプローチ**の実践を開始しました。世界総会でトレーニング・セッションがおこなわれ、またモニタリングと評価の助けとなるトレーニング・ツールとマニュアルが

作られました。これらは、この新たなアプローチに関して加盟 YWCA の指針となるため、また、成果ベースのマネジメントに同アプローチを組み入れるためのものです。

- ❖ 世界総会において、4 年間をかけた**ビジョン構築のプロセス**に取りかかりました。これは 2035 年までに運動として実現したい目標を明らかにし、世界中の女性、若い女性および少女のリーダーシップと集団としての力を養成するという現在の目標をさらに発展させるためのものです。参加者たちはそれぞれ自分たちの国において YWCA が進歩をもたらすべき重要課題を描き出しました。

- ❖ ハイチおよび米領バージン諸島の 2 つの YWCA が世界総会で新たに加盟 YWCA となり、加盟 YWCA の総数は 108 になりました。これに加え、現在さらに 12 の YWCA が加盟を目指しています。

- ❖ 世界 YWCA の**適切な組織運営と説明責任の基準(SGMA)**に基づく、加盟 YWCA による過去 4 年間の自己評価をまとめた報告書が作られました。この報告書は、加盟 YWCA の間で適切な組織運営と説明責任を強化する指針となるでしょう。SGMA はフランス語とスペイン語にも翻訳されました。■

## パートナーシップによる相乗効果

企業、国際組織、NGO、エキュメニカル団体など、協力団体やネットワークと協働することは世界YWCAのアドボカシー活動およびプログラムの成功へのカギとなります。

### 主な成果

❖世界YWCAは、**デイビッド&ルシール・パッカー**財団と協力関係を結んで3年目になります。アフリカの8つのYWCA(アンゴラ、ベナン、エチオピア、ケニア、ルワンダ、シエラレオネ、タンザニア、そしてザンビア)で、性と生殖に関する健康と権利(SRHR)に関して広範な活動が進められました。SRHRとHIVに関して若い女性のリーダーシップを強化するため、草の根レベルや世界総会でトレーニングがおこなわれ、プロジェクト計画、モニタリングおよび評価のための技術サポートが提供されました。また、若い女性たちが国際的/地域的アドボカシーの場に参加するための支援がおこなわれました。さらに、ザンビア、タンザニア、ケニアそしてエチオピアへのモニタリング訪問が開催され、上記のプロジェクトによる前向きな効果が明確に確認されました。数百人の女性、若い女性および少女がトレーニングを受け、さらにここまで上記の8カ国における活動は、延べ3万人近い人々を支援し、SRHRとHIVに関する1万1,000以上の教育・コミュニケーション資料を配付しています。

❖世界YWCAは、「HIV、女性、少女およびジェンダー平等に関する運営計画」の履行を先導する女性とAIDSに関する世界連合にメンバーとして積極的な関与を継続しました。12以上の協力団体が参加した国際女性サミットもまた、世界連合の活動計画の重要な構成要素でした。国際女性サミットでは、SRHRやHIVについてのハイレベル公開討論会、ならびにHIVに関するハイレベル会合および国連エイズ合同計画(UNAIDS)の運営計画の成果モニタリングに直接関連した多くの分科会が開催されました。

❖アジア太平洋女性情報研究センター(ARROW)との新規パートナーシップを構築し、2014年に見直しがおこなわれる国際人口開発会議(ICPD)による行動計画の履行状況のギャップに関してアフリカの女性たちと協議します。

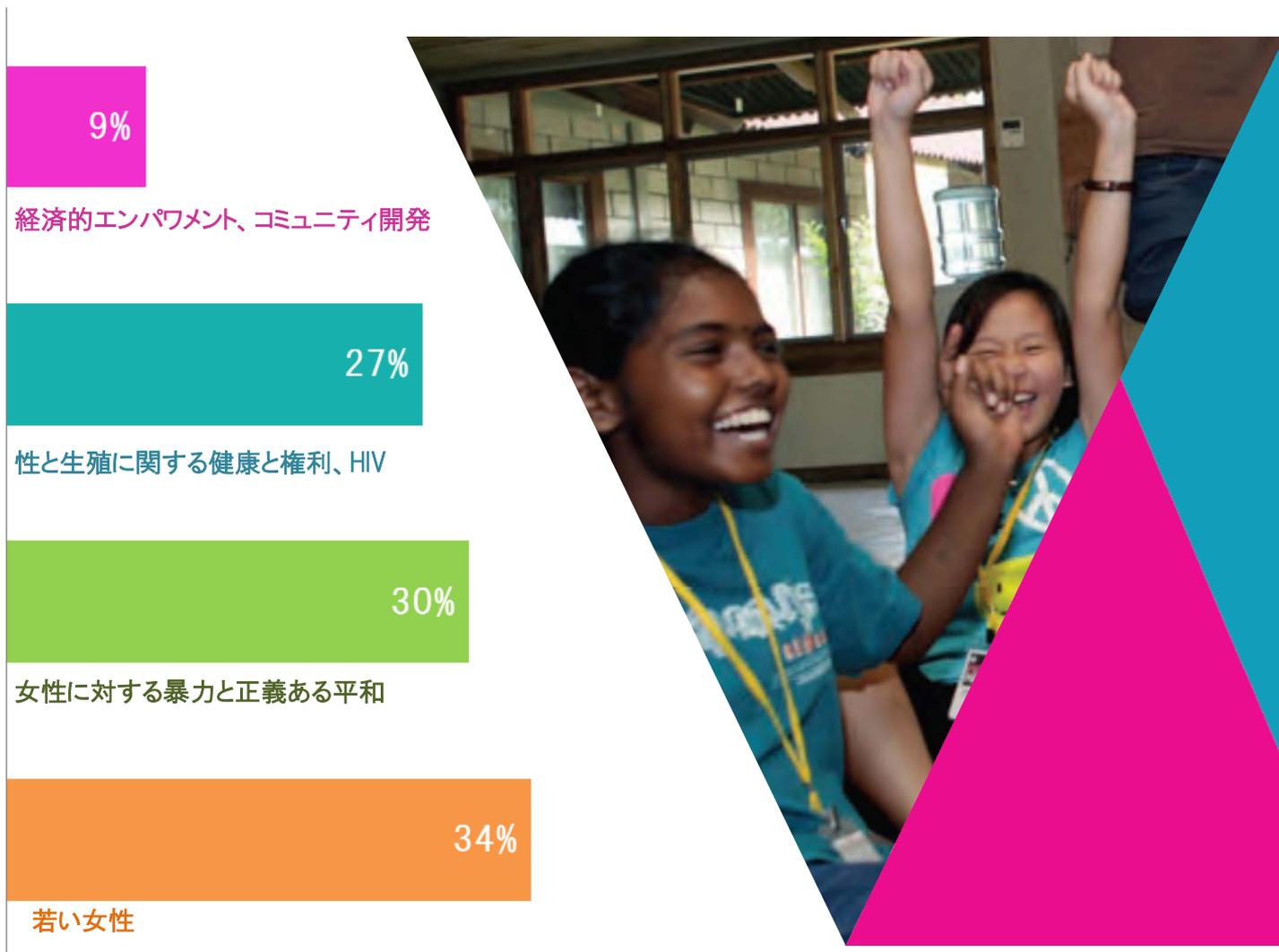
❖2011年にオーストラリア国際開発庁(AusAID)と新規パートナーシップを開始しました。「若い女性リーダーの結集とアドボカシー・プロジェクト」は、インド、ソロモン諸島、バングラデシュ、ネパール、ミャンマー、スリランカを含むアジア・太平洋地域の10カ国に的を絞っています。この共同プログラムは、SRHR、ジェンダーに基づく暴力やHIV/AIDSについて、若い女性たちのリーダーシップを向上させ、これらの国におけるプログラムをサポートするものです。

❖2011年の世界総会で、世界YWCAとレガシー基金は、共同でメンタリング・スタジオ・プロジェクトを開始し、全世代のYWCAのリーダー100人にインタビューをおこなって、草の根コミュニティでの彼女たちの経験や及ぼした影響について聞き取りました。このプロジェクトは、世界各地の若い女性にメンタリングを提供できるオンラインのプラットフォームを創りだすことを目指しています。■

世界YWCAの「**変革への力基金**」への支援、援助をいただいたパートナーの皆さまのおかげで、加盟YWCAは、女性たちのリーダーシップ、SRHRおよびHIVに関する意識向上、能力向上、女性に対する暴力への取り組み、そして女性や少女の人権についてなど、多岐にわたるプロジェクトやトレーニングに参加し、あるいは直接運営しました。寄付者の皆さまのご支援により、世界各地で4万5,000人以上がこれらの活動に参加し、全体で16万人以上の人々を支援することができました。

# 「変革への力基金」プロジェクトの焦点

2011 年の優先課題



## WORLD YWCA ANNUAL REPORT

## 会計報告(2011年3月31日～2011年12月31日)

※2011年から世界YWCAの会計年度が4月～3月から1月～12月に移行したため、移行期の本年度は上記の報告期間になっています。

### ■資産

(単位:スイスフラン)

|               |                   |                   |
|---------------|-------------------|-------------------|
| <b>1.固定資産</b> |                   |                   |
| ・建物附属設備(純額)   | 232,132           | 214,722           |
| <b>2.流動資産</b> |                   |                   |
| ・当座資産         | 755,057           | 1,421,781         |
| ・売却可能金融資産     | 15,038,010        | 13,879,000        |
| ・売掛金          | 507,614           | 462,503           |
| ・源泉徴収税等       | 22,534            | 16,950            |
| ・前払金          | 77,435            | 16,887            |
| <b>2 合計</b>   | <b>16,400,650</b> | <b>15,797,121</b> |
| <b>資産合計</b>   | <b>16,632,782</b> | <b>16,011,843</b> |

### ■基金・準備金

|                 |                   |                   |
|-----------------|-------------------|-------------------|
| <b>1.一般基金</b>   |                   |                   |
| ・受取寄付金          | 4,532,693         | 4,288,929         |
| ・その他の準備金        | 584,003           | 266,978           |
| <b>1 合計</b>     | <b>5,116,696</b>  | <b>4,555,907</b>  |
| <b>2.指定基金</b>   |                   |                   |
| ・指定プログラム基金      | 461,934           | 403,102           |
| ・リーダーシップ恒久基金    | 9,734,156         | 9,500,576         |
| ・国際発展基金         | 178,846           | 187,104           |
| ・J&U ポーター基金(資本) | 192,081           | 191,563           |
| <b>2 合計</b>     | <b>10,567,017</b> | <b>10,282,345</b> |
| <b>基金・準備金合計</b> | <b>15,683,713</b> | <b>14,838,252</b> |

### ■負債

|               |                |                  |
|---------------|----------------|------------------|
| <b>1.固定負債</b> |                |                  |
| ・加盟団体預り金(長期)  | 164,680        | 164,680          |
| ・前受寄付(長期)     | 112,291        | 102,934          |
| ・年金           | 10,624         |                  |
| <b>1 合計</b>   | <b>287,595</b> | <b>267,614</b>   |
| <b>2.流動負債</b> |                |                  |
| ・前受収益         | 45,218         | 12,868           |
| ・買掛金および未収金    | 173,670        | 199,961          |
| ・加盟団体預り金      | 430,109        | 680,671          |
| ・前受寄付(短期)     | 12,477         | 12,477           |
| <b>2 合計</b>   | <b>661,474</b> | <b>905,977</b>   |
| <b>負債合計</b>   | <b>949,069</b> | <b>1,173,591</b> |

|                       |                   |                   |
|-----------------------|-------------------|-------------------|
| <b>基金・準備金、および負債合計</b> | <b>16,632,782</b> | <b>16,011,843</b> |
|-----------------------|-------------------|-------------------|

# 世界 YWCA 運営委員・スタッフ

## ■運営委員会(2011年7月選出)

<役員>

**会長:** デボラ・トーマス・オースティン(トリニダード・トバゴ)

**副会長:** スーザン・ブレナン(オーストラリア)、トシ  
ア・ギデオ(ベリーズ)、アイダ・イトウゼ(ルワンダ)、  
カースティ・アン・ケリー(イギリス)、ジェシカ・ノットウ  
エル(カナダ)、アンドレア・ニューネス・アルゴテ(メキ  
シコ)、

**会計:** キャロライン・フラワーズ(米国)

<運営委員>

シルバンナ・アヤイポマ・デ・マトス(ペルー)、ハイフ  
ア・バラムキ(パレスチナ)、ベリンダ・ベネット(インド)、  
バレリー・フェリシア・ホー(台湾)、アンナ・カイザ・イコ  
ネン(フィンランド)、アリス・イウヰェケール(ソロモン  
諸島)、ホダ・カマル・エル・マンカバディ(エジプト)、  
ルナ・リー(米国)、レベッカ・プウイティコ(マラウイ)、  
モニカ・シメオン(ナミビア)、ウォン・ヨンヒ(韓国)、  
ギースキ・ザネン(オランダ)

## ■スタッフ

**本部:**

ニャラザイ・ゲンボンズバンダ(総幹事、ジンバブエ)  
ミッシェル・ヒゲリン(副総幹事およびヨーロッパ地域  
担当、オーストラリア)

アナ・ピラヌエバ(全体コーディネーター、アルゼンチ  
ン)

フィオナ・ウィルキー(世界総会コーディネーター、イ  
ギリス)

マリサ・リボルディ(世界総会アシスタント、スイス  
(2011年8月まで))

**プログラム担当:**

ジュリー・ダグデール(女性のリーダーシップと運動構  
築世界プログラム・マネージャー、アジア太平洋地域  
担当、オーストラリア)

マリー=クロード・ジュルサン(女性に対する暴力世界  
プログラム・マネージャー、北米・カリブ地域担当、ハ  
イチ)

ヘンドリカ・オコンド(SRHR および HIV と AIDS 世界プロ  
グラム・マネージャー、アフリカ地域担当、ケニア)

カテリーナ・レンプ(会員サポート・プログラム・オフィ  
サー、ラテンアメリカ地域担当、チリ)

マンディー・ノガレデ(助成金マネジメント・プログラム・  
オフィサー、中東地域担当、イギリス)

パオラ・サルワン・ダヘル(若い女性プログラム・オ  
フィサー、ヨーロッパ地域担当、レバノン(2011年8  
月まで))

**コミュニケーション担当:**

シルビー・ジャクアット(スイス)、ヴィヴィアン・ハカック  
(スイス)、マヤ・ゴソヴィック・レコヴィック(セルビア)

**財務・会計・人事:**

ジェーン・ベネット(アイルランド)、アイカ・ルワ・テム  
(タンザニア)、リン・ソレンティノ(アメリカ、2008年  
11月から)マリーアントワネット・サンツィ(スイス)、マ  
リサ・リボルディ(スイス)

**■インターン**

ジェンタ・タウ(ソロモン諸島)、アテムツェハイ・ゼルガ  
ウ(エチオピア)、ニナ・オステルホルム(フィンランド)、  
アリファ・エルリントン(ベリーズ)、マルシア・バナスコ  
(イギリス)、ジュリアナ・チャット・アグルト、リガ・エフェ  
ジャ(ラトヴィア)、グウエンドリン・アシュクロフト



World YWCA

世界 YWCA:

2,500 万人の女性と少女が関わり、正義、平和、健康、人間の尊厳、そして環境保護のために 120 カ国以上で活動する世界運動です。

## 米国

「YWCA は希望の場所です。YWCA で生活する女性たちは、さまざまなことを経験しています。それぞれ抱える理由は異なっても、私たちは皆この場所に安全とサポートを求めてやってきました。私たち全員が自分たちにとってより良いことをしたいのに、手だてがありませんでした。YWCA がそのギャップを埋めてくれました」

タミー・ブライアントは、セントラル・バージニア YWCA のドメスティック・バイオレンス防止センター(DPVC)の利用者でした。YWCA の支援を受けて施設から自分のアパートに引っ越すことに成功し、2つの職を見つけました。その1つはDPVCのハウスキーパーで、彼女の体験談をセンターにやってくる女性たちと共有しています。YWCA は世界各地で、女性に対する暴力(VAW)に対してカウンセリングや法的援助、シェルターの提供、法的保護の拡充を求める政策提言などの活動をしています。



## チリ

「YWCA は私のアイデアと創造性を存分に発揮する機会を与えてくれました。それは、女性や少女たちの生活に良い影響をもたらすためのスキルの向上に役立ちました。私たちの地域 YWCA では、リーダーシップをさまざまな角度からとらえる「女性が発揮するリーダーシップ」プロジェクトを開発しています。また、思春期前の少女たちを対象に、自己評価を強化し自分の権利について学び HIV と AIDS について情報を得ることができるアクティビティの提供を通じて彼女たちのリーダーシップを養成する特別プロジェクトをおこなっています」

マージョリー・コーデロは、チリのバルパライソ YWCA で積極的に活動する会員です。他の女性たちとともに、世界 YWCA の「変革への力」基金の協力を得てリーダーシップ・プロジェクトを先導しています。2011 年を通じて世界 YWCA は 31 のプロジェクトを支援し、それらのプロジェクトはすべて、女性が自分の人生を決めていく助けになっています。



## ハイチ



「私たちはこれまで世界 YWCA に加盟するため努力を続けてきており、今回、晴れて加盟したことで、ネットワークに所属しているという一体感を感じています。世界 YWCA 総会には、私たちの YWCA から 6 人の女性と若い女性が参加する機会を得、掘り下げた討論やプレゼンテーションに感銘を受けました。このような世界各地の女性たちとの触れ合いに参加することにより、女性たちが直面する問題の核心についての異なる観点を与えられました。それは素晴らしく、豊かな経験でした」

タマラ・グエリン・パラウは、ハイチ YWCA でコミュニティと生活の再建に取り組む女性たちの一人です。ユースセンターの設立により、思春期の少女たちへのリーダーシップ養成セッション、グループ・セラピー、性と生殖に関する健康と権利(SRHR)および HIV、女性に対する暴力(VAW)に関する意識向上や知識を提供し、さらに年1回、「若い女性のリーダーシップ・セミナー」を開催しています。

## タンザニア

「私は 10 歳の時に学校をやめさせられて祖父と同年代の男性と結婚し、5 人の子どもを産み、ジェンダーに基づく暴力や女性器切除を受けました。家族に助けを求めることもできず、人生をあきらめようとしたその時に、アルーシャ YWCA を紹介されました。そこで、新事業を立ち上げるための資金提供を受け、ヤギや牛を購入することができました」



メレソ・キルスは、若いマサイ族の女性で、現在はタンザニアの彼女のコミュニティにおける YWCA の大使となりました。彼女はジェンダーに基づく暴力や早婚や見合い婚などのサバイバーの女性たちのためのグループをつくりました。グループはメンバー同士でトウモロコシ畑の新事業を立ち上げました。また、同じようなトラウマを持つ女性たちを支援し、少女たちが学校に通い続けることを奨励しています。このようなプロジェクトは、性と生殖に関する健康と権利(SRHR)に関する若い女性のリーダーシップを結集するための YWCA の活動の一環であり、パッカード財団の支援のもとで推進されています。

## スコットランド

「私は、スコットランドの海岸沿いの小さな町出身で、YWCA の中で素晴らしい旅を体験している若い女性です。現在 27 歳で世界 YWCA の副会長として、今まで私が成し遂げてきたことや、これから起きることすべてについて、夢中で、刺激を受け、光栄に思っています。世界総会に 3 度出席し、1,500 人もの人々の前で演説をおこない、若い女性たちのリーダーシップ・トレーニングやプレ総会をリードするという自己目標も成し遂げました。

スコットランド YWCA の会長も兼任しながら、今度は、世界中の女性のための世界組織を先導するチームの一員になりました。これからの「Y の旅」も心待ちにしています。なぜなら、Y では、先に何が待ち受けているのかは誰にもわからないからです」



カースティ・ケリーは、世界 YWCA 運営委員会の副会長で、幾年にもわたり YWCA で活躍しているメンバーです。世界 YWCA は、リーダーシップ・ポジションの 25%以上を若い女性に与えるという公約をしており、今日では、世界 YWCA の新運営委員会の 45%が若い女性で構成されています。

## パレスチナ

「スリランカを訪れ、紛争後の人々の生活がいかに危険にさらされているかを初めて目のあたりにしました。この訪問で、運動としてコミットメントを続け、女性たちの安全な場を確保するために倍の努力をしなくては、と強い意志でいっぱいになりました。この連帯訪問のメンバーたちは、各自同じような経験をしており、この訪問は著しく価値がありました。正義ある平和や女性のための安全な場の確保に向け、一緒に活動できることはとても有益だと感じています」



アーダ・アガザリアンは、パレスチナ YWCA のアドボカシーおよびメディア・コーディネーターで、2007 年から 2011 年まで世界 YWCA の運営委員でした。アーダは「戦争や紛争が女性や少女に及ぼす影響」という 2 年間のプログラムのコーディネーターの一人です。これは世界 YWCA と Y-グローバルの援助を受けたプロジェクトで、紛争中の国々に暮らす女性たちの能力向上を促進し国連安全保障理事会決議(UNSCR)1325 号履行に貢献することを目指すものです。

## 日本

「今年の女性の地位委員会(CSW)55 会期のチームに参加できて光栄です。YWCA の代表団全員が本当に国際的で世代を超えたチームとして流れるように協働している様子や、自信にあふれてイニシアチブを取る多くの若い女性たちを目のあたりにして、驚き感銘を受けました。CSW で私は、女性や子どもの人身売買や子どもの商業的・性的搾取、性的搾取目的の人身売買の撲滅に向けたノルウェーのモデル、移民女性とドメスティック・バイオレンス、そしてセックス・ワーカーに関する終わりのない議論などについて、深く理解することができました」



吉田亜希は日本 YWCA から派遣され、世界 YWCA 代表団の一人として 2011 年の女性の地位委員会 (CSW)に参加しました。世界 YWCA は毎年、若い女性が CSW に参加してアドボカシーのスキルを強化し、女性の人権保護に関する国際機関に携わる機会が得られるようサポートしています。



## ソロモン諸島

「世界 YWCA オフィスでの 1 年間のインターンシップで、私は大変重要な役割を与えられました。また、今まで訪れたことがない場所に行ったり、大きな国際会議に参加したりする機会もありました。そのすべては私の分析能力の向上に役立ち、執筆やレポートのスキル向上になりました。エンパワーされ、自信を感じました。ソロモン諸島へ戻った時、ソロモン諸島 YWCA の総幹事に任命されました。そこでも、若い女性のリーダーシップや能力への YWCA の強い信頼が示されました」

ジェンタ・タウは若い女性インターンの 1 人で、ソロモン諸島 YWCA の活動をさらに拡大させるため、世界レベルの活動で得られた自身の経験を持ち帰りました。ドイツ教会開発サービスや他の寄付者の皆さまのおかげで、インターンシップ・プログラムは 2011 年に 20 周年を迎え、これまでに合計 88 人の若い女性を支援しました。



# WORLD YWCA ANNUAL REPORT

World YWCA ANNUAL REPORT APRIL 2011–DECEMBER 2011  
(英文)

編集・発行：世界YWCA 2012年 11月

世界 YWCA 年度活動報告(英語)は [www.worldywca.org/](http://www.worldywca.org/)

世界YWCA 2011年度活動報告書（日本語版）

編集・発行：日本YWCA 2013年 3月

翻訳協力：春井 多美恵

Tel: 03-3292-6121 Fax: 03-3292-6122

E-mail:[office-japan@ywca.or.jp](mailto:office-japan@ywca.or.jp)